

干し方のコツ

1 洗濯物の干し方

洗濯物は、日が傾き始めたら取り込みましょう。

天気の良い日は、10時～15時の間が最も気温が高く、湿度も低い時間帯です。この時間に干す事で、カラッとした気持ちの良い洗濯物になります。

ただし、この時間以降は気温が下がり始め、湿度も上がってくるので注意しましょう。干しておいても逆にどんどん湿っぽくなってしまいますので、日が傾き始めたら取り込みましょう。

最近では生活スタイルも多様化しており、夜に洗濯物を干すという家庭も増えてきておりますが、夜露を吸ってしまいますし、天気や防犯上の心配もありますので、日が出ているうちに帰宅ができないような場合は、室内に干す方が安心です。

風の強い日には、部屋干しがおすすです。

風が強い日には、洗濯物が風にあおられて物干竿ごと落ちてしまう心配があります。竿ストッパーなどで、物干竿が落ちないように工夫して干しましょう。
特に風が強い日や外出する時には、外に干さないで室内に干すほうが安心です。

(「部屋干しのコツ」についてはP1・P2を参照して下さい。)

お気に入りの衣類を長く大切に着るには、
干す場所や干し方も重要です。

衣類には直接日光にあてると、変色してしまったり繊維が傷んでしまう素材がありますので、干す場所に注意しましょう。

必ず陰干しにするもの

シルク・ウール・ナイロン・ポリウレタンは紫外線により繊維が黄変したり弱くなってしまうので、必ず風通しの良い日陰に干すようにします。

裏返して干すか、陰干しにするもの

コットン・麻・レーヨンに使用される染料が日光の影響を受け、色あせや変色を起こします。色・柄物は季節を問わず、裏返して干すか、陰干しにしてください。
ジーンズやスラックスなどのスポン類も裏返して干すことで、色あせやポケットが半乾きということを防げます。
裏布のあるポケット付き・生地や縫い目の厚いものも、しっかりと乾くように裏返して干しましょう。

洗濯物の干し方によっては、襟ぐりがのびてしまったり、肩が飛び出してしまうりと、形が崩れる原因になってしまいます。衣類にあった干し方を確認しましょう。

いろいろな干し方

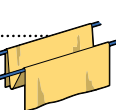
筒状のつり干し

ジーンズやパンツ、スカートなどは、裏返して筒状に干すと早く乾きます。



M字干し

毛布やシャツなどを2本の竿を使って干す方法。空気が通りやすいので、早く乾きます。



平干し

ニット系や伸びやすい衣類、型崩れしやすい衣類は、平干しで!



三角干し

水滴が一か所に集まって、早く乾きます。



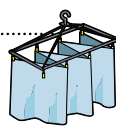
竿干し

洗濯物の重みで型崩れするのを防ぎます。



じゃばら干し

シャツ・バスタオルなどの薄手の大物類を干す時に1干すスペースがないときに便利。



大切な衣類を長持ちさせるために、お洗濯には洗濯表示マークで干し方もしっかり確認しておきましょう。

(洗濯表示マークについてはP2を参照して下さい。)

2 布団の干し方

人は就寝時に、コップ一杯の汗をかくとされています。

これは、熟睡するために体温を下げる必要があり、汗をかくことで体内の熱を発散させていることによります。汗は肌着やパジャマはもちろんのこと、布団にも吸い込まれていますので、定期的に布団を干し乾燥させることは、紫外線による殺菌効果もありますし、快適な睡眠につながります。

布団を干す時間帯が大切。

布団を干す時間帯は、陽射しの強い10時～14時頃が最適です。
朝は夜露が蒸発するので湿気が多く、夕方日が落ちると急速に湿気が多くなり、干しても布団はかえって水分を吸ってしまいます。逆に湿度が低ければ、曇りの日でも乾燥させることができます。また冬場は、午前中は湿度が高めですので、干すのは午後からがおすすめです。

雨の日の翌日は干さないで。

晴天であっても雨が降った翌日は湿度が高くなっているので、できるだけ布団干しは避けましょう。
布団が湿気を吸い込み、その分布団に含まれる空気の量が減ってしまい、保湿性が下がってしまいます。

布団は両面干しましょう。

寝ている間に出る水分は、掛布団の上側と敷き布団の床に接している側、つまり布団の裏側にたまります。
起きたばかりだとぬくもりのある表側を乾燥させたいと思いますが、実は体の当たらない裏側を干す事は、ふんわりと乾燥した布団を楽しむ上で非常に大切です。

布団はたたかないで、ブラシでほこりを軽く払って取り込みましょう。

干した布団をバンバンたたくと、ほこりが出てきれいになった気がしますが、これは大きな間違い。
布団をたたくとせっかく含んだ新しい空気が抜けてしまい、中綿の繊維が切れてホコリの原因になったり、側生地が傷んでしまいます。布団はたたかず、ブラシで軽く払って下さい。
ホコリやダニが気になるという方は、掃除機を布団の両面にゆっくりとかけて下さい。
取り込んだ布団は、夏場は部屋に広げて、余分な熱を冷ましてから押し入れにしまいましょう。
逆に冬場はすぐに押し入れに入れば、暖かい布団で眠れます。

布団の素材を確認しましょう。

布団に使われている素材はいくつか種類があります。布団の素材によってちょっと干し方を工夫すると、いつもより気持ちのよい睡眠になるはずです。

素材別の干し方

綿 布 団	・湿気を吸いやすいので日干しにします。 ・表と裏、合わせて2～3時間ぐらい干しましょう。
羽毛布団	・吸湿性、放湿性に優れているので風通しのよい日陰に干します。 ・羽毛布団は日光に弱いので日向に干すときはカバーをかけて干すようにしましょう。 ・表と裏、合わせて2～3時間ぐらい干しましょう。
合成繊維布 団	・日干し、または陰干しどちらでも干せます。 ・表と裏、合わせて2～3時間ぐらい干しましょう。
羊毛布団	・羊毛布団は陰干しにします。日向に干すときはカバーをかけて干すようにしましょう。 ・表と裏、合わせて1～2時間ぐらい干しましょう。

布団を干すときは、生地が日焼けしないように必ずシーツやカバーを掛けて干すことが大切なポイントです。

